

1 単元名 いにしえの心を訪ねる 「『平家物語』 「扇の的」「敦盛の最期」」

2 単元設定の理由

(1) 教材について

- ・古典文学には現代に通じる価値観や、現代とは違った、あるいは現代人が忘れてしまったものの見方や考え方が描かれているものが多い。今回扱う「平家物語」は、琵琶法師によって語られた平曲であり、七五調を交えた和漢混交文である。独特のリズムと調子を持った「平家物語」は、平安時代に書かれた作品より読みやすく親しみやすい教材となっている。
- ・「扇の的」は、那須与一がはるかかなたの扇の的を見事に射落とす場面である。与一が味方の名誉のために命をかけて挑んだ悲壮な心情と弓術の見事さが描かれている。また、与一の腕に感動して舞を舞った老武者を与一が射倒すことで、容赦なく命を奪う義経の非情さも描かれている。「敦盛の最期」では、熊谷次郎直実が武士として武勲をあげるために戦いを挑む姿や、敦盛が名を汚すまいと潔く死を選ぶ姿、人の親として若者の死を悲しむ姿など、戦国に生まれた武士の運命の過酷さに苦しむ姿が描かれている。この2つの教材の登場人物である「那須与一」「熊谷次郎直実」「平敦盛」の三人の人物を通して、当時の武士の生き方について考えさせることができる。

(2) 学習者について

- ・9月に行った教科アンケートでは、国語の授業が「好きだ」「どちらかといえば好きだ」と答えた学習者は、75%、国語の授業が「理解できている」「どちらかといえば理解できている」と答えた学習者は94%となっており、国語の学習に比較的高い意識で取り組んでいることが分かる。また、分野ごとに見ていくと、「物語文」や「漢字」「語句」「文法」に対する関心が高いことも分かった。一方で、「古典」の学習に関しては、「あまり好きでない」「好きではない」と答えた学習者は62%と高い結果となった。その理由として、「書いていることが分からない」「昔の言葉は難しいから」「何を言っているのか理解できない」「昔の人の考えに共感しにくいから」という内容があげられており、苦手意識が高いことが分かる。
- ・前期(6月)の古典の学習では随筆「枕草子」に取り組んだ。比較的優しい内容であり、単元のゴールとして、「現代版枕草子」を書く活動を取り組み、平安時代と現代の四季の捉え方について考えた。その中では、「昔の人も現代の私たちと同じように四季を感じていたということが分かった」「春夏秋冬の季節の美しさは当時も現代も変わらないものがあるということが分かった」などの感想を持っている学習者も多かった。今回の学習では、「枕草子」の学習より、より深く古典文学に親しませるため、当時の人々の心情に迫らせたい。

(3) 指導について

- ・「那須与一」「熊谷次郎直実」「敦盛」の三人の武士の「心の表裏」について考え、グループで共有する活動を通して、三人の武士の共通点を考えさせることで当時の人々の生き方や心情について考えさせる。また、当時の人々の生き方や心情の中に現代の自分に通ずるものがあるのかどうかについて考えさせることで、古典の世界をより身近に感じることができるよう促す。
- ・単元のゴールとして、「『平家物語』の人物の心情に迫れ!～人物列伝を作成しよう～」という活動を設定した。本文を読み解き、それぞれの人物を調べ、本文を登場人物に着目して読み取った上で、人物列伝を作成することでより深く人物を知り、「平家物語」を理解することができると共に、人の生き方について学ぶことに寄り添うことを支援する。

3 単元の目標

〈知識及び技能〉 (3) 我が国の言語文化に関する事項のイ

- ・現代語訳や語注などを手掛かりに『平家物語』の原文を読むことを通して、当時の人々(武士)のものの見方や考え方を知ることができる。

〈思考力, 判断力, 表現力等〉 「C 読むこと」(1)オ

- ・『平家物語』の原文や現代語訳を読み、三人の人物について考えたことを、これまで学習した古典の知識や自分の経験と結び付け、自分自身と重ね、考えを広げたり深めたりすることができる。

〈学びに向かう力, 人間性等〉

- ・『平家物語』の原文を読むことを通して内容を理解した上で、当時の人々(武士)の心情を考え、他者と交流する中で自分の考えを伝え合おうとする。
- ・当時の人々の心情と現代の自分自身を重ね合わせることで、古典の世界を身近に感じることができるよう態度を養う。

4 評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①「平家物語」の作品を理解した上で、独特な調子やリズムを感じ取りながら音読しようとしている。 ②「扇的」と「敦盛の最期」の現代語訳や語注、解説文を手掛かりとして原文の内容を理解している。 ③原文を理解することを通して、そこに描かれている情景や登場人物の心情を想像しようとしている。	①「読むこと」において、原文や現代語訳を読み理解したことを、自分の持っている知識と結び付けることでより深く明確なものにしようとしている。 ②「読むこと」において、「那須与一」「熊谷次郎直実」「敦盛」の三人の人物について考えることで、共感したり、疑問を持ちたりする中で自分と重ね合わせることで、自分の考えを広げたり深めようとしている。	①原文や現代語訳を手掛かりとして理解した内容をもとに「武士の精神（武士のあり方）」について考え知識を深めようとしている。 ②他者の考えを取り入れながら、当時の武士の心情を理解し、自分自身と重ね合わせようとしている。 ③「人物列伝」を自分自身が読み取ったことや班活動で得たことをもとにして作成しようとしている。 ④作成した「人物列伝」を班で交流し、感想を伝え合おうとしている。

5 指導と評価の単元計画

時	主な学習活動・ねらい	指導上の留意点【問いの工夫】	評価規準			・評価規準・〔評価方法〕
			ア知識	イ思考表	ウ態	
単元のゴール:『平家物語』の人物の心情に迫れ!~人物列伝を作成しよう~(言語活動)						
1	「平家物語」の歴史について理解し原文を音読することを通して、「平家物語」の概要を知り、この作品を通して語られている「無常観」について考えることができるようにする。	・「平家物語」の文学史について理解させる。 ・「扇的」と「敦盛の最期」の原文の音読を行い、独特な調子やリズムを感じ取らせる。 ・単元のゴールを設定し、次回以降の見通しを持たせる。	①			【ア知識・技能】① 「平家物語」の独特なリズムを理解した上で音読をすることができている。また、次回以降の見通しを持つことができている。〔行動観察〕
2 ・ 3	・「扇的」と「敦盛の最期」の原文と現代語訳や語注、解説を照らし合わせて読み、クイズを通して内容を理解する。 ・クイズを通して理解した内容を踏まえて、「当時の武士の精神（武士のあり方）」について考える。	・「扇的」と「敦盛の最期」について内容理解につながるようなクイズを個人・班で答えさせる。答えは原文で書くことで古文に触れさせる。 ・理解した内容を踏まえて、「武士の精神（武士のあり方）」について考えさせる。	②	①		【ア知識・技能】② 現代文と古文を照らし合わせながらクイズに答えることで、内容を理解することができている。〔行動観察・ワークシート〕 【ウ主体的に学習に取り組む態度】① クイズを通して理解した内容を手掛かりとして「武士の精神（武士のあり方）」について他者の考えを参考にしながら考えを深めることができている。〔行動観察・ワークシート〕
4	「那須与一」「熊谷次郎直実」「敦盛」の三人の人物に着目し、それぞれの人物の心の「表」と「裏」について考える。	・班で三人の人物について分担し、それぞれの人物の心の「表」と「裏」についてまとめさせる。 ・同じ人物について考えている人と交流を行い、担当した人物についての理解を深めさせる。	③			【ア知識・技能】③ 原文（現代語訳）を読み深め、それぞれの人物の心情を理解し、心の「美」と「醜」について考えることができている。〔行動観察・ワークシート〕
5 (本時)	・三人の人物について班で交流を行い、三人に共通する心の「表」と「裏」について班で考える。 ・現代の自分たちと重ね合わせて共通するところがあるかどうか考える。	・三人の人物の心の「表」と「裏」について交流を班で行った後で、その三人に共通する心の「表」と「裏」について考えさせる。 ・当時の武士の心情で私たちが共感できることはあるか、自分自身を振り返って考える。		① ②	②	【イ思考・判断・表現】①② 登場人物三人についての理解を深めた上で、自分自身を振り返り、当時の武士の心情と比較することができている。〔ワークシート〕 【ウ主体的に学習に取り組む態度】② 班活動を通して、三人の人物を理解する上で他者の意見を取り入れることができている。〔行動観察〕
6	前時までの学習を振り返りながら、「人物列伝」を作成する。	・前時までの授業のプリントなどを参考にして一人1枚の「人物列伝」を作成させる。			③	【ウ主体的に学習に取り組む態度】③ 授業の内容を振り返りながら、「人物列伝」を自分の言葉で文章をまとめながら作成することができている。〔行動観察・作品〕
7	・完成した「人物列伝」を班で交流し、お互いの感想を述べ合う。 ・学習のまとめを記述する。	・自分が作成した「人物列伝」を班で交流させ、感想を述べさせる。 ・単元のまとめとして、学習のまとめを書かせ、提出させる。			④	【ウ主体的に学習に取り組む態度】④ 作成した「人物列伝」を班で交流し、感想を伝えることができている。〔行動観察〕

●学習状況を見取り、学習者の成長を認め励ますとともに必要に応じて指導、支援を行う「学習改善につなげる評価」

○観点別学習状況の評価や評定に用いる「記録に残す評価」

【努力を要する状況(C)に対する手立て】

- ・単元のゴールに位置づけた「人物列伝」の作成については、モデルを示し、イメージしやすいよう支援する。
- ・古語の読み方を確認しながら読むことができるよう、ペアで音読をさせる。
- ・原文を理解する際には、現代語訳や語注、語釈を示したり、ペアで内容理解を確認しあう時間を設けたりする。
- ・4人の人物について学習を深める際には、他者の意見を自分の考えの中に取りこめるようグループで考えを交流す場面を設定する。他者の意見を自分の考えと合わせて再構築させることができ、深い理解につながるよう支援する。
- ・学習したことを視覚化する「人物列伝」を作成することで発表内容の理解を深めることができる。

6 本時の指導

- (1) 本時の位置づけ (5 / 7)
- (2) 題材名 『平家物語』 「扇的」「敦盛の最期」
- (3) 本時のねらい

古典の現代に通ずる部分を、「那須与一」「熊谷次郎直実」「敦盛」の人物の心の「表」と「裏」を読むことを通して、当時の人々(武士)の心情に寄り添いながら、迫ることができる。

本時における「問い」を生み出す工夫(国語科)

- ・「那須与一」「熊谷次郎直実」「敦盛」の心の共通点を追求する。
- ・当時の人々(武士)の心情で現代の私たちが共感できることはあるか自分自身を振り返って考えを記述する。

(4) 展開

時間	学習活動	学習内容及び指導上の留意点	評価
5	1 前時の振り返りとめあての確認をする。	○前時までの活動の振り返りを行い、本時のめあてを提示し、意識づけを行う。	
めあて: 三人の武士の心の「表」と「裏」についてまとめ、現代の私たちでも武士の心に共感できるか考えよう!			
5	課題: 三人の武士に共通する心とは何だろうか。		
	2 三人の人物についてそれぞれが調べたことを班で共有する。	○「那須与一」「熊谷次郎直実」「敦盛」がどのような人物なのか、また心の「表」と「裏」について班で発表し共有する。	・他者の発表を聞き、三人の人物についての理解を深めている。[行動観察]
25	3 三人の人物の心の「表」と「裏」で共通することを班で話し合いまとめる。→発表 《課題の解決》	○三人の人物について交流したことをもとにして、共通する心の「表」と「裏」について班で話し合う。 ○話し合った内容をホワイトボードにまとめ、全体で交流する。 予想されるホワイトボードの内容 「表」…一門や自分のために、強い責任感とプライドを持ち、生きぬこうとする強い気持ち。 「裏」…どのような状況であっても同じ人間を殺さなければいけない、命を経たなければならないことに葛藤する気持ち。	
7	4 班の発表を受け、自分の言葉で三人の人物の心の「表」と「裏」についてまとめる。《まとめ》	○他の班の考えも踏まえながら、課題の答えを自分の言葉でまとめる。 (C層の学習者への手立て) ・CBや黒板のホワイトボードを参考にさせながら、自分の言葉で文章を記述するように促す。	・三人の人物の心の「表」と「裏」について他者の意見を踏まえた上で自分のことばでまとめを記述している。[行動観察・ワークシート]
7	5 ふりかえりを行う。	○《まとめ》を踏まえた上で、現代の私たちでも武士の心に共感できる部分があるかどうか自分の経験を振り返りながら記述する。	・自分自身を振り返り、当時の武士の心情と比較している。[ワークシート]
振り返り ・「表」の部分に共感できる。私自身も認められたいなどの欲の気持ちから、兄弟に対して意地悪をしたことがあるので。 ・「裏」の部分に共感できる。上の命令であっても同じ人間を殺すということはとても苦しいことであると考えたからだ。			